



羅針盤

No.63

東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <http://www.tokometal.co.jp>

(見学受付)

電話03-3790-1751 又は 各営業担当



☆羅針盤

鉄スクラップ →

考察) 5月は東京製鉄宇都宮工場特級価格15,500円/トンから16,500円/トンへと1,000円/トン上がりました。東高西低の状況はまだまだ続く模様。6月は、国内鉄鋼メーカーの減産姿勢・鉄鉱石の下落、建築需要回復の遅れもあり、大きな上げは見込まれないが、品薄状況や湾岸の価格上昇もあり横ばいもしくは多少の上げはあると思われます。

銅 →

考察) 月初から国内銅建値が50,000円/トン上げでスタート、LME自体は6,300ドル/トン台。円安の影響で国内銅建値が高値で維持している。6月は、ギリシャ債務交渉も進んでおらず、しかも欧米の株価続落から見てLMEも下がると考えられます。円安が進んでも間違いなく銅は下がるでしょう。

アルミ →

考察) 5月はLME1,900ドル/トンでスタートしたものの最終的には1,800ドル/トン台まで下落。新塊価格の続落2次メーカーの製品需要の減退が進んでいる為6月は上物、裾物ともに下がると思われます。

プラスチック →

考察) メインの売先である中国が品質に関してどんどん厳しくなっていて、良いものは取るが混じり物は取らなくなっています。6月の価格自体は横ばいと思われます。

5月予測の自己評価

鉄スクラップ	<input type="radio"/>	アルミ	<input type="radio"/>
銅	<input type="radio"/>	プラスチック	<input type="radio"/>

鉄・非鉄スクラップ・市況からの6月予測

営業部 Y の考察



紫陽花



☆羅針盤

フロン排出抑制法 (改正フロン回収・破壊法)

4月1日に施行された「フロン排出抑制法」では、再生証明書、破壊証明書の交付、回付、保存が義務付けられました。

以前は引取証明書の交付でフロン回収の行程管理を終了していましたが、改正後は再生業者、破壊業者に引渡したフロンに関して管理者及び廃棄等実施者に再生証明書、破壊証明書を回付することとなりました。機器の管理者はこれらの証明書をもとに機器から漏れ出したフロンの量を計算し国に報告することになります。(漏えい量報告) この改正法に対応して、行程管理票(マニフェスト)は充填回収業者から再生業者・破壊業者までの行程を管理できるように改定され拡張した管理票が設けられました。

廃棄する機器の所有者等

↳ 取次者 ⇒ 第一種フロン類充填回収業者

この行程は従来の行程管理票A票～F票までを利用しますが、フロン排出抑制法への対応として、従来のF票が改定され、新たに拡張した新管理票(X票、Y1票、Y2票、Z1票、Z2票)の行程が出来ました。

X票＝フロン類再生・破壊依頼書

充填回収業者が記入し、F票の写しを添付して、破壊業者又は再生業者へ交付します。

破壊の場合

Z1票＝破壊証明書

破壊業者が破壊処理が完了した時点で記入、充填回収業者へ交付します。写しを3年間保存

再生の場合

Z2票＝再生証明書

再生業者が再生処理が完了した時点で記入、充填回収業者へ交付します。写しを3年間保存

⇒ 充填回収業者は、交付を受けたZ1票又はZ2票を取次者～機器の所有者へ回付し、写しを3年間保存

⇒ 回付を受けた取次者(Z1写し)、機器所有者(Z1)3年間保存

X票で再生依頼を受けた再生業者がフロン類の全部又は一部の再生を行わず破壊を依頼する場合

Y1票＝再生を行わなかったフロン類の破壊依頼書

再生業者が記入し破壊業者へ交付します。写し保存推奨

Y2票＝再生を行わなかったフロン類の破壊依頼受取・処理証明書

破壊業者が記入し再生業者へ交付します。写し保存推奨

⇒ 再生業者は交付を受けたY2票の保存推奨



私のリサイクル業人生 (東港金属と共に)

第1回

今年、東港金属は創業113年になりました。

福田勝西商店から始まり、戦後(昭和21年)二代目社長になってから、地金を扱う東港金属と、製品を扱う福田地銅店と事業ごとに枝分かれして再スタートしましたが、そこからでも69年になります。

私が入社したのが昭和36年ですから足掛け54年間、二代目社長から現在の四代目社長まで仕えさせてもらいました。

入社した時のことが今でも鮮明に思い出されます!! 私の歩んできたリサイクル業人生は、まさに東港金属の道程と同じです。

私が入社した当時、会社は港区の芝にありました。(社名の東港は、東京都港区の東と港です)

入社後すぐ寮に入りました。福田地銅店の社員も寮では一緒に生活していました。皆さん同業者の方の跡取りや、上司の知人の紹介で入った方々でしたが、私達の年から商売と関係ない人も受け入れるようになりました。社員のほとんどが寮生で、地方出身の私も同期の8人と一緒に寮生活から始まりました。

仕事だけでなくお客様対応の礼儀まで、社内の躰は厳しいものでした。世間の同業者からは「東港福田学校」と言われていたようで、社員を育てることに情熱を燃やし、親身に教えてくれる先輩方が大勢おられました。既にOB会もできていて、会社とOB会からなる資金の貸付システムもあり、昭和31年には先輩3名がその貸付資金で独立しておられることも知りました。

金属のことは右も左も分からず、最初は掃除・洗濯(今と違って手洗いで)す、そろばん練習から始まり、仕事ではスクラップ選別や、エポニー(砲金くず)他の金属の性質等についてイロハのイから習う毎日でした。

100kg 詰めの砲金くず入りカマスを腰で背負ったり、肩で担いで運ぶことに慣れるまでは1年かかりました。

体的には大変でしたが、同期の仲間に負けたくないという思いが強く、仕事が辛い時も、先輩諸氏が独立したお店を持たれているということが励みになり、頑張ることが出来ました。

伸銅向けスクラップは5t集まるとメーカーに出荷しました。

鋳物向けは選別後 切粉は50kgを紙袋詰めに、塊は100kgをカマス詰めに、先輩方と二人で鋳物屋さんへ納品してました。納品先は殆どが小規模経営でしたが、石炭を使って溶解し、砂型に流してバルブなどを作っていました。会社近辺の品川区、目黒区、大田区から、遠くは板橋区そして埼玉県の川口辺りまで届けたことを覚えています。

配達のためにも車の運転免許を取りたかったのですが、仕事があつて教習所に行く時間が取れず、今なら決して許されないことですが、夜中に車を借り、見知らぬ道で練習を続け、入社した年12月に免許取得。それからは楽しい毎日でした。次回にお話します。

(執行役員専務 石平光夫)